

令和8年度 第2回 蒲小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年7月24日(金)9:00~11:30
- 2 開催場所 浜松市立蒲小学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、山内 敏幹、名倉 善郎、名波 久子、鈴木 厚子、
橋爪 洋子、早川 奈穂子、成瀬 浩一
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校支援コーディネーター 山本 恭子
- 6 学 校 内山 圭子（校長）、大宮 久人（教頭）、高邑 香奈子（教頭）、
梅村 友之（主幹教諭）、磯部 陽子（CS ディレクター）他 43 人
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 磯部 陽子
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木 厚子委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 「フィールドワーク振り返り・地域情報交換」グループワーク
- (2) 蒲小学校における防災教育 講話「有事に生きる防災教育」
「蒲地区子供たちの安全のために私たちができること」グループワーク

11 会議記録

司会の高邑教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 「フィールドワーク振り返り・地域情報交換」グループワーク

7月23日(木)、蒲小教職員は、保護者の皆さまに「さくら連絡網」を通じて『蒲地域おすすめスポット』アンケートの結果を参考に、それぞれのグループに分かれて、グループワークを行った。蒲神明宮や商業施設を見学し、蒲地域の魅力を再発見した。学校運営協議会委員の皆さまと先生方との交流を図り、地域愛を深めて参りたい。（梅村教諭）

<グループワーク>蒲の魅力について

議長の指示により、7グループに分かれ、学校運営協議会委員の皆さまと蒲小学校職員と一緒に話し合いをし、グループそれぞれがキャッチコピーを作成した。

- ①魅力いっぱい 腹いっぱい ゆめの町
- ②歴史と最先端と世界が交じるまち
- ③過去から未来へ 歴史と人をつなぐまち 蒲
- ④伝統と最新の融合の町 蒲

- ⑤臨機応変に蒲る 蒲の町
- ⑥にぎや蒲
- ⑦みんなの居場所 蒲のぬくもりネットワーク
- ⑧リアル蒲冠者

(2) 蒲小学校における防災教育

常葉大学 木宮敬信教授を招き、「有事に生きる防災教育」というテーマで講話していただいた。講話では、地域の災害リスクを知り、自分で判断し、日頃の実践が行動につながることを、家庭と地域との連携し、地域全体で防災意識を高めることがとても大切だというお話を伺った。また、子供が防災を主体的に学ぶことが、家庭や地域社会全体の防災力向上につながり、学校での訓練をいかに家庭に反映させるかが大きなテーマである。

<グループワーク>蒲地区の子供たちの安全を守るために私たちができること

議長の指示により、7グループに分かれ、学校運営協議会委員の皆さまと蒲小学校職員と一緒に話し合いをし、以下の発言があった。

- ①インフラ、公共施設の役割が大切。小中学校、公民館だけでは地震の時、受け入れできない。
大型店舗や地元の企業の助けが必要になってくる。
- ②学校で避難訓練を行っていると反応が早い。地震への慣れが生じて、意識を変える必要がある。
- ③大雨などによる引き渡しの際、職場から車で学校へ来る保護者が多いため、訓練でも車で来て良いという呼びかけの元、現実的な引き渡し訓練を行ったほうが良い。
- ④地域の防災訓練に子供たちがほとんど参加していない。どうしたら、参加率を上げれるかが課題。
- ⑤避難場所を学校が把握したほうが良い。保護者と子どもの共通理解が重要。そこから、学校も把握し、1人でも助かる人を増やす。さくら連絡網で共有するのはどうか。
- ⑥『自分の命は自分で守れ』を刷り込む。防災体験施設を活用し、在宅避難について学ぶ。
- ⑦南海トラフの細かい話はしてない。どこまで意識を高めた方が良いか。猛暑の中で避難することになると心配。
- ⑧木宮先生の講演会を、家庭や地域にも。ヘルメットよりも防災頭巾のほうが、近くにあるから安心ではないか。

その他報告事項等

司会から、今回の会議は、2025年9月11日(金)北校舎1階多目的ルームで防災訓練を参観していただき後、開催する旨の報告があった。